西中学校校舎等配置計画

令和8年10月
上尾市教育委員会

目次

Ⅰ.基本的な考え方について

１. 上尾市の計画方針 ・・・・・・・・・・・・・・・１

２. 計画の方向性 ・・・・・・・・・・・・・・・１

３.施設整備のキーワード ・・・・・・・・・・・・・・２

Ⅱ. 現状

１. 現状 ・・・・・・・・・・・・・・・３～４

Ⅲ. 検討過程

１. 学校運営協議会 ・・・・・・・・・・・・・・・５

２. アンケートの実施 ・・・・・・・・・・・・・・・５

Ⅳ. 配置計画

１. 配置の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・６

２. 配置計画 ・・・・・・・・・・・・・・・７～８

３. 配置計画検討資料 ・・・・・・・・・・・・・・・９～１４

Ⅴ. 配置計画アンケートの回答概要

１. アンケートの概要 ・・・・・・・・・・・・・・・１５

２. 回答概要 ・・・・・・・・・・・・・・・１６

Ⅵ. 比較検討表

配置比較検討 ・・・・・・・・・・・・・・・１７～１９

Ⅶ. 事業スケジュール

１. 整備スケジュール ・・・・・・・・・・・・・・・２０

Ⅰ.基本的な考え方について

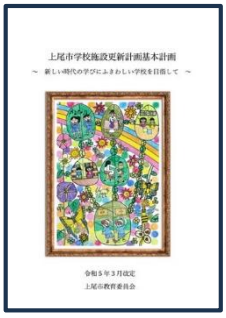
1.上尾市の計画方針

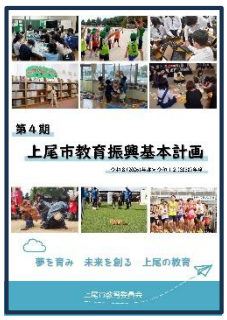
「上尾市学校施設更新計画基本計画」は、「持続可能な教育環境づくり」を基本理念に掲げ、老朽化する学校施設を計画的に更新し、「新しい時代の学びにふさわしい学校」の実現を目指すための計画です。

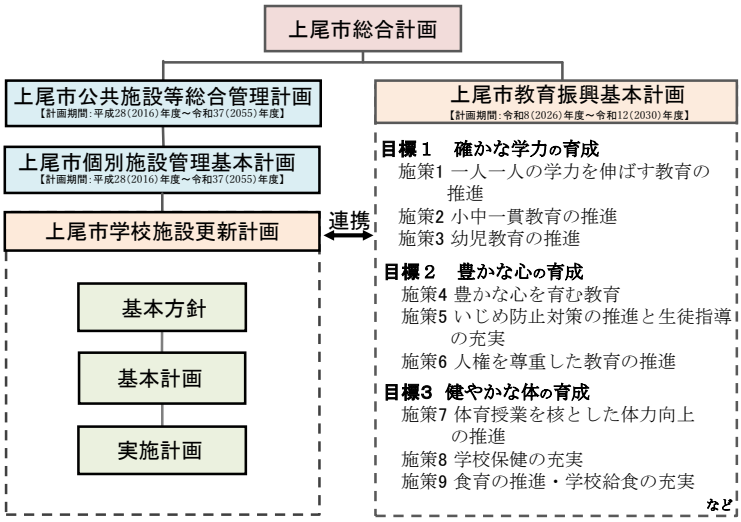
本計画の推進にあたっては、「上尾市教育振興基本計画※」と連携しながら、「上尾市学校施設更新計画実施計画」に基づき、学校施設の更新に取り組んでいます。

※　教育基本法第１７条第２項に基づき、教育の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、地方公共団体が策定する計画

■ソフト面：教育内容の充実、いじめ対策、
　　家庭や地域との連携強化 など
■ハード面：学校施設の整備、ICT環境の整備
　　快適な学習環境づくり など







2.計画の方向性

学校施設更新計画では「持続可能な教育環境づくり」の実現を図るために3つの方向性を掲げております。

持続可能な教育環境づくり

- 方向性１ 新しい時代の学びにふさわしい学校づくり〈教育環境の整備方針〉
- 方向性2　子どもたちの学びに望ましい学校規模の維持〈学校規模の適正化方針〉
- 方向性3　計画的・効率的な学校施設の更新〈学校施設の更新方針〉

Ⅰ.基本的な考え方について

３．施設整備のキーワード

配置計画の際には、どの計画もこの4つのキーワードを軸に検討をおこなっております。

安全・安心な学校

①学校施設の更新による安全・安心な教育環境の確保

取組 ・建物を支える柱などの劣化状況調査

健全性・安全性
有 → 延命利用
無 → 建替え

②避難所としての学校施設の活用

取組 ・セキュリティの確保
・動線計画、ゾーニングの検討
→ 災害時、学校施設を地域住民に開放



安全・安心な教育環境、地域コミュニティの拠点（イメージ）



地域の避難所としての防災機能の強化（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

新しい学びに対応した学校

①新しい学びに対応した教育環境・設備を備えた学校への改築

取組
- 変化に対応する柔軟性・可変性のある施設整備
- 多様な学習活動を展開できる教室空間を検討
- 設備や家具の工夫による多様な学習活動の展開、教室環境の充実
- 教職員の働き方改革を推進し、校務等の能率を最大化するための執務空間を検討
- インクルーシブ教育システムの構築





多様な学習活動を展開できる教室空間（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

地域に開かれた学校

①学校と地域が連携・協働していくための空間整備

取組 ・明瞭なゾーニングや、死角を作らない空間配置など、防犯の視点から検討
→ 地域コミュニティの拠点として開放

②地域コミュニティ拠点となる施設の複合化

取組 ・防犯対策や配置計画、空間構成に配慮し検討
→ 公民館や図書館などの社会教育施設との複合化や共有化



木材を利用し温かみのあるリビング空間（イメージ）



多様な活動ができる空調設備のある体育館（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

快適な学校

①空調設備の充実や脱炭素社会の実現に向けた環境整備

取組 ・空調設備の充実
・省エネルギーや再生可能エネルギーの導入

②学校を利用する全ての人に配慮した環境整備

取組 ・ユニバーサルデザインの採用
・バリアフリー化
→ 利用者全てに優しい学校施設



太陽光発電設備を導入し環境教育に活用（イメージ）



学校施設の木質化（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

Ⅱ．現状

1．現状

（1）既存校舎の概要

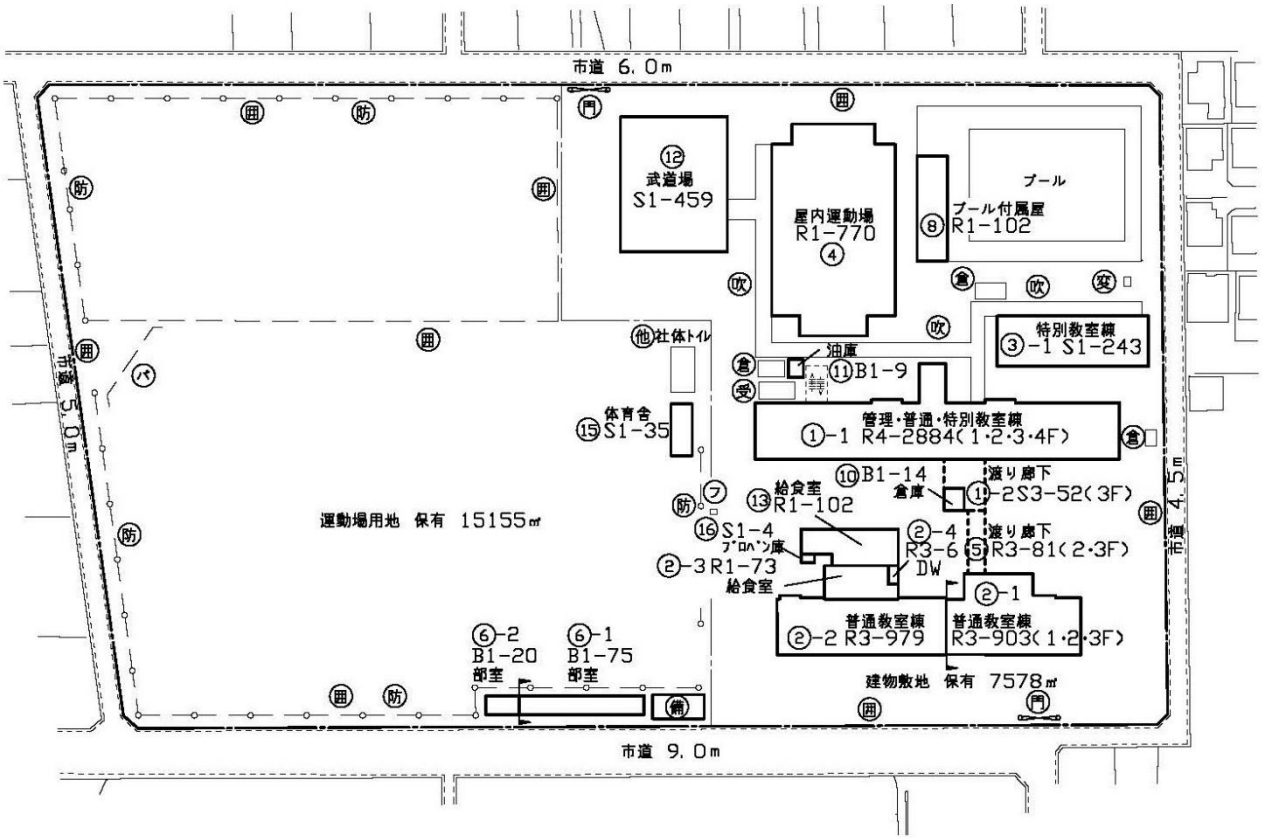
既存の建物について、以下の表のように格技場以外（主に管理諸室や教室として利用している建物と体育館）は、建築後50年を超えており、老朽化が進行している状況です。

西中学校は、昭和46年に鉄筋コンクリート造の校舎を新築し、昭和48年から昭和49年にかけて、生徒数の増加により教室棟の増築、体育館の建設をしています。また、昭和51年及び平成4年に給食室、平成5年に格技場の整備を行うなど、時代に合わせて施設整備を実施しているため、建物ごとの建築年数が異なります。

西中学校				
建物名	構造	延床面積	建築年度	築年数
管理･北校舎	RC	2884	S46	55
南校舎	RC	1882	S49	52
金工木工特別教室	S	243	S46	55
体育館	RC+S	770	S48	53
格技場	S	459	H5	33
給食室	RC	175	S51･H4	50･34

※構造欄の「RC」は鉄筋コンクリート造、「S」は鉄骨造を示す。
※着色部分(桃色)は建築年数40年以上の建物を示す。

（2）既存校舎参考図

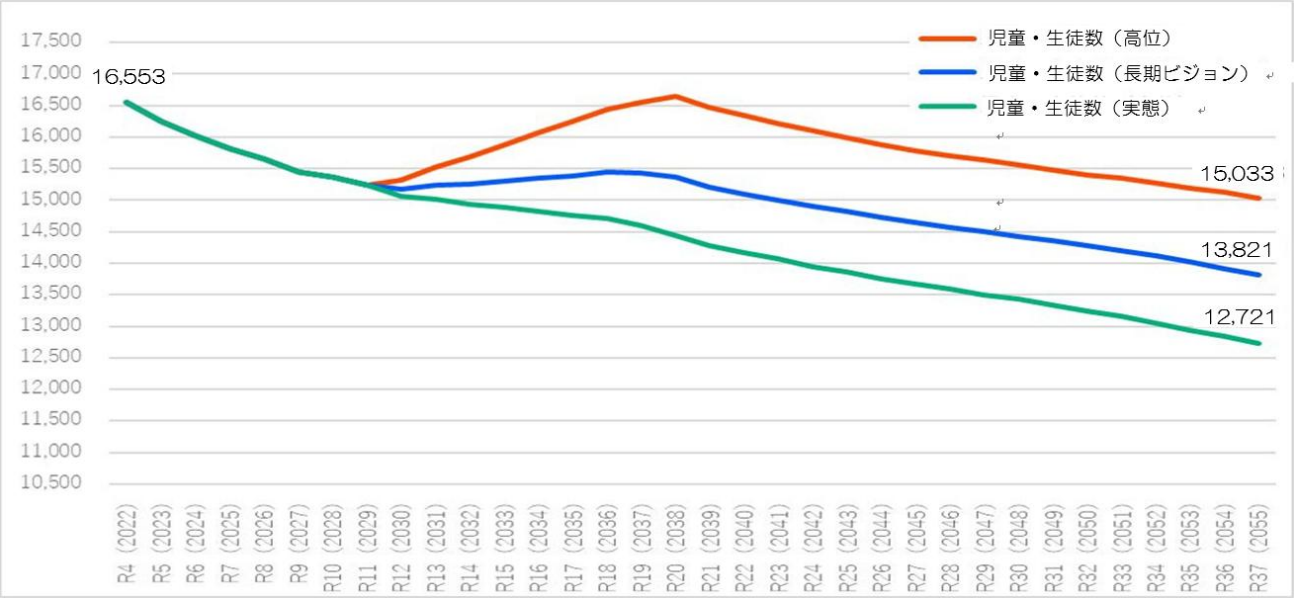


（3）人口

上尾市では児童生徒が減少しており、高位、長期ビジョン、実態全てで、右肩下がりとなる推計になっています。

一方で西中学校の生徒数は、平成6年以降は、概ね横ばいで推移し、令和37年には500人程度と見込まれます。

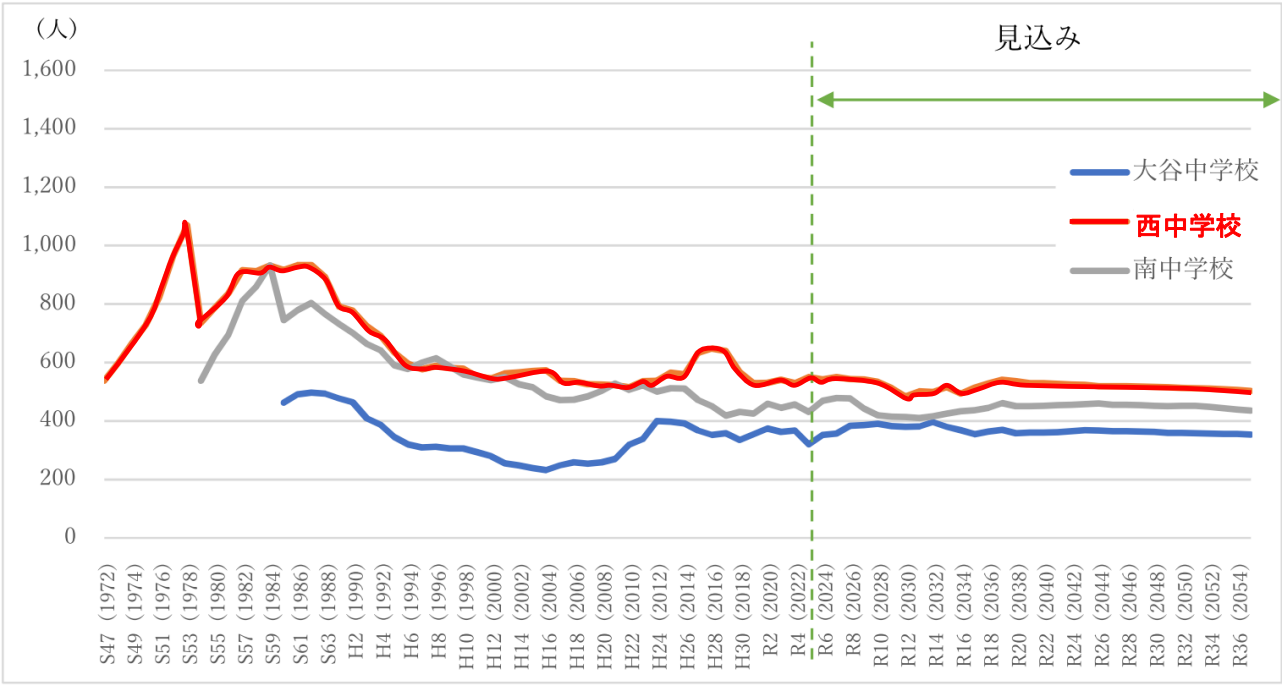
上尾市内児童・生徒数推計



上尾市学校施設更新計画基本計画より抜粋

西中学校の生徒数の推移・推計

○中学校



上尾市学校施設更新計画基本計画より抜粋

Ⅲ. 検討過程

１．学校運営協議会

配置計画の作成にあたり、西中学校学校運営協議会委員の皆様と意見交換をさせていただきました。

以下に、西中学校学校運営協議会での意見の主な内容を示します。

【主な意見】（令和7年7月14日）
- 建物の階数を高くして空間をたくさん作れないか。
- 50年、70年と利用するので、防災ハザードマップなども確認して、治水対策を講じてほしい。
- 将来に渡り利用する建物なので、教育方法の転換に対応し柔軟に改修できるようにした方がよい。
- 体育館の下に教室を配置するのは、音の問題で落ち着かいないので、やめた方が良い。
- 学級配置数は、各学年の学級数に加えて1室を設け学級増減に対応できるようにした方が良い。
- コモンズ広場は、災害時利用を想定されているようだが、荒れ地にならないように日常管理が行いやすくする必要がある。
- コモンズ広場の利用を防犯面も含め、より具体的にする必要がある。
- グラウンドやテニスコートの水はけが悪いので、対策した方が良い。
- 部活動の地域移行が進み、放課後のグラウンドは、使われない可能性があると思うため、貸出できるようなことも加味するのが良いと考える。

２．アンケートの実施

生徒、学校関係者、地域の思いや声を把握し、学校の改築を進める際の参考とさせていただく目的で、アンケートを２回実施いたしました。

（１）１回目アンケート（西中校校舎等更新設計に係るアンケート）

【対象】生徒・教職員、学校運営協議会委員、避難所運営班

【期間】令和7年4月14日～4月30日

【内容】生徒・児童：学校の好きな場所、新しい学校にあったらいいなと思うもの、新しい学校はどんな学校がよいかについて
教職員：各内部諸室の整備のポイントについて
学校運営協議会委員：今後の学校に求めるものについて
避難所運営班：避難所機能について

（２）２回目アンケート（西中校校舎等更新設計配置計画案に関するアンケート（以下「配置計画アンケート」と称する））

【対象】教職員、生徒保護者、学校運営協議会委員、避難所運営班、開放委員会、自治会長、西中学校周辺にお住いの方

【期間】令和7年8月28日～10月3日

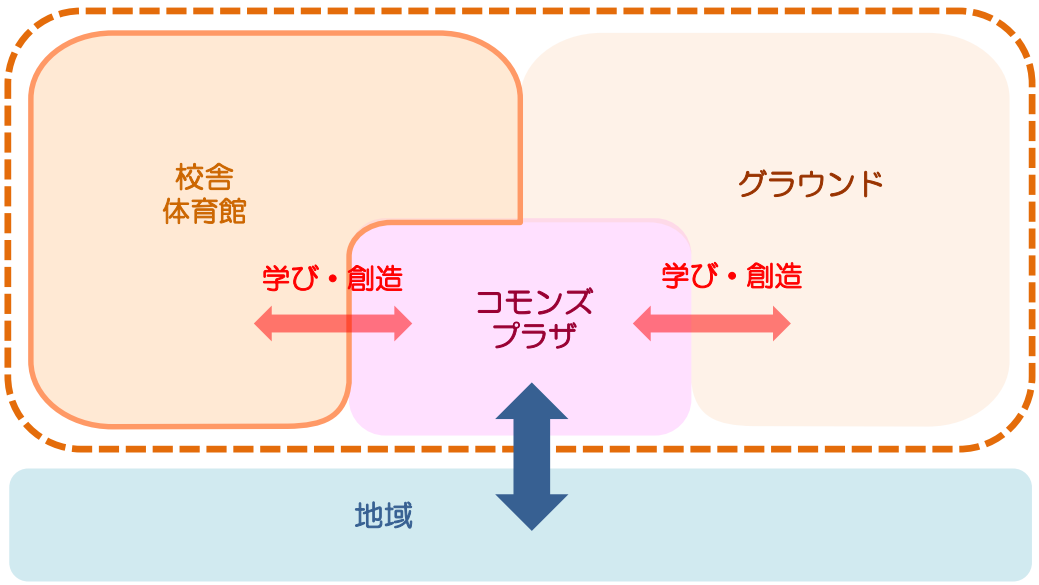
【内容】配置計画案の良い点、懸念点について

Ⅳ. 配置計画

１. 配置の特徴

『地域と育む、共創コモンズ』を特徴とした配置計画をおこなっております。屋外広場のコモンズプラザは地域と学校が連携し共に創る共有地点となります。

概念図



２. 配置計画

（１）建物配置案の整理

学校敷地内における校舎や運動場の配置について、３つの配置案を想定し、比較検討を行いました。（「配置計画検討資料」を参照　Ｐ１０～１５）

３つの配置案（Ａ案、Ｂ案、Ｃ案）の特徴を整理し、検討に際しては大きく分けて「配置」、「環境」、「防災」、「工事中の環境、工事の効率性」の4分類、24の項目について比較しながらメリット・デメリットを含めて検討を行いました。

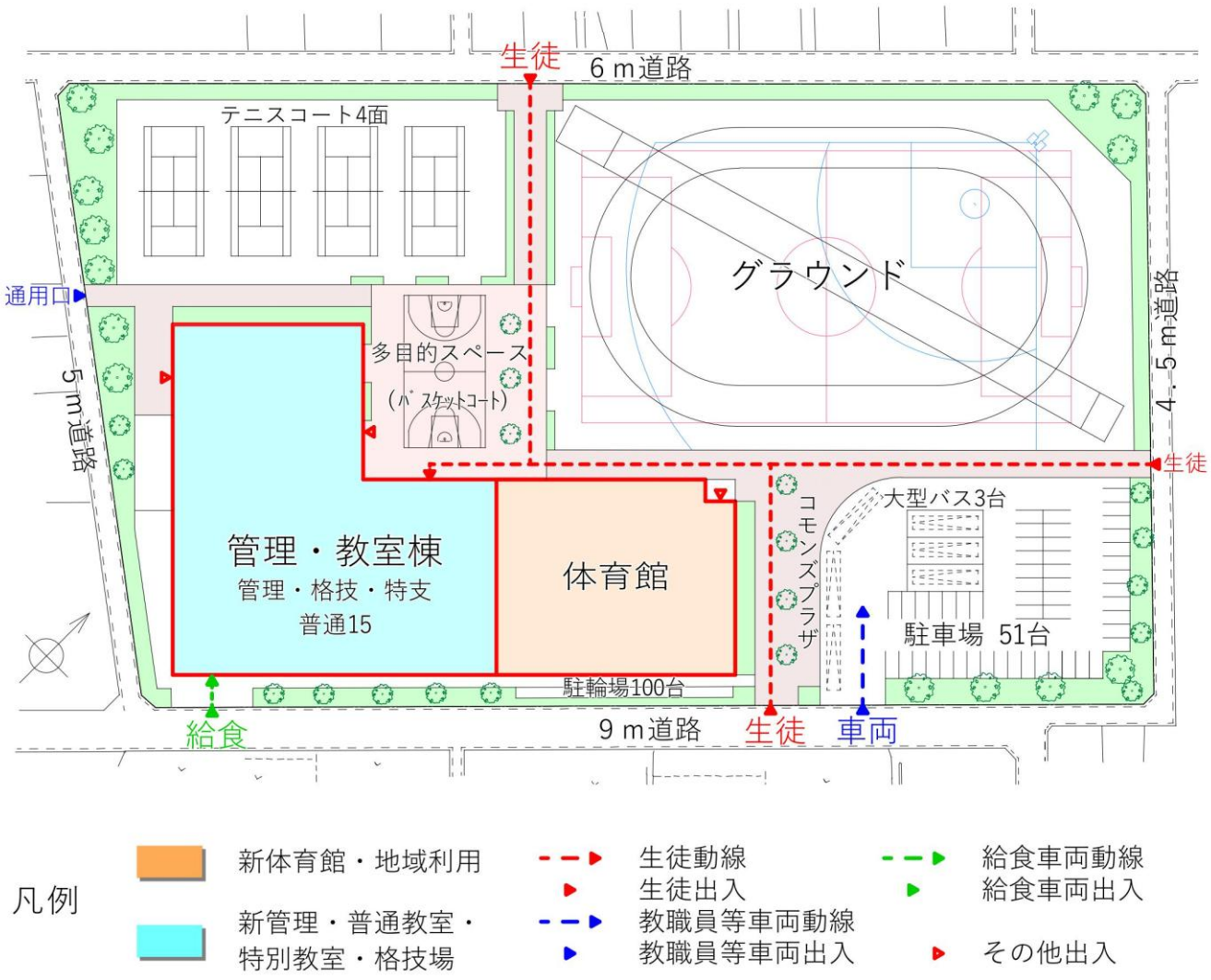
Ⅳ．配置計画

（２）新校舎の配置計画

今回の計画にふさわしい配置案として、配置計画アンケートで頂いた意見を取り入れるとともに、近隣住戸への校舎等による日影の影響も考慮し最終的に C案を選定しました。

新校舎の配置は、東西方向に横長配置とし、生徒数の増減等に合わせて柔軟な教室配置ができるようにします。また既存グラウンドは一体的に活用し、広い面積を確保し、災害時への活用も考慮します。

配置検討（修正Ｃ案）配置計画の完成イメージ



■計画の特徴

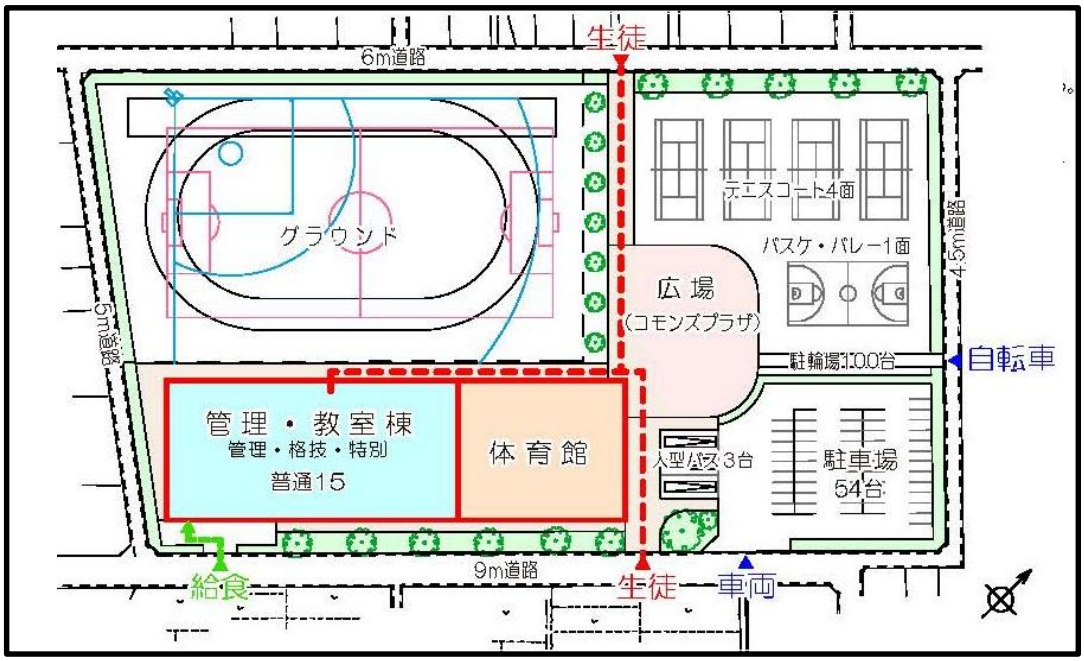
＜良い点＞
- 体育館がグラウンドと隣接している為、連携しやすく、駐車場に　も隣接しており、地域利用での屋内運動や集会に使いやすい位置である。また、災害時の避難所としても各所の連携に有効である。
- 体育館と管理棟、普通棟を一体的な校舎プランとなる為、日常における各棟への往来にも使いやすい位置である。
- 北側に教室を配置した場合でも、グラウンドに面することで、広い視界と安定した採光が確保される。
- 生徒が利用する南東門および北西門と車両の出入口を分離しており、9m道路に面して駐車場も全台数をまとめて配置している。
- プール授業送迎用の大型バスを敷地内に駐停車する為、生徒の安全な乗降、近隣に対して配慮がなされている。

＜懸念点＞
- 新体育館工事範囲と既存南校舎が近接している為、工事中の安全等の配慮が必要である。
- Ⅰ期工事中のテニスコートが2面となる。（完了時：4面）
- Ⅱ期工事中の仮グラウンドが150mトラック程度の大きさになる。（完了時：200mトラック）
- 体育館建設時と校舎建設時にでグランドとテニスコートの移動が生じる。

（3）配置計画アンケート時からの変更点

新校舎の配置計画にあたり、学校運営協議会での意見や配置計画アンケートを踏まえ、C案に以下の修正を加えています。

■修正前　C案（配置計画アンケート時）



■修正後　C案　（配置計画アンケートを踏まえた修正）

○主な変更点

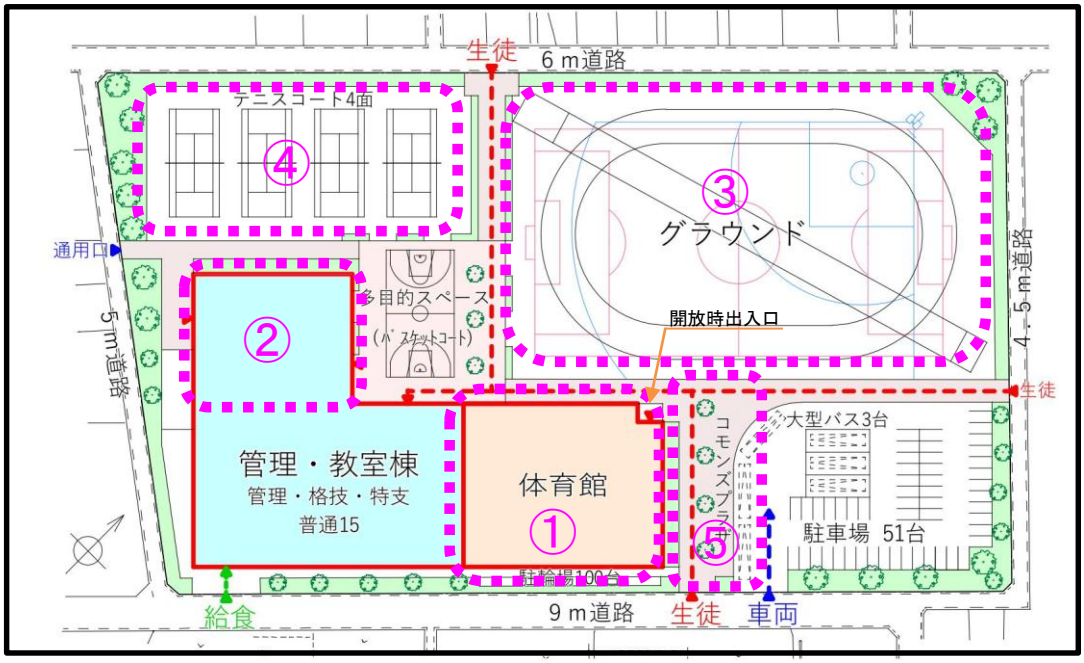
①体育館を2階とし1階に特別教室を配置する想定をしていましたが、近隣への日影や授業時に生じる1階への衝撃音に配慮し、体育館を1階建てとしました。

②①により特別教室分を管理・教室棟に加え、校舎の形状をL型としました。

③L型校舎としたことにより、校庭の最終配置を東側へ変更しました。

④テニスコートを最終的整備時に現状配置と同じ位置となるようにしました。

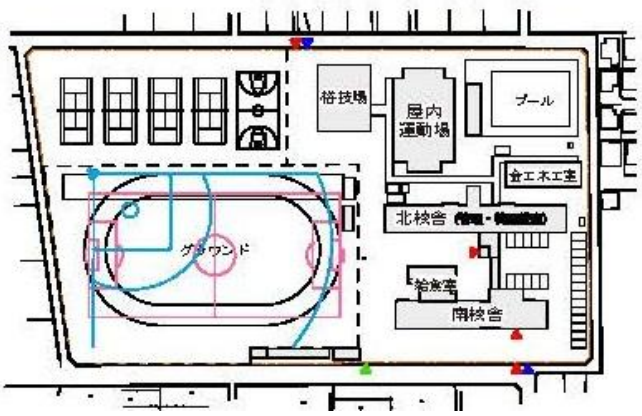
⑤広場（コモンズプラザ）を9m道路に隣接させました。



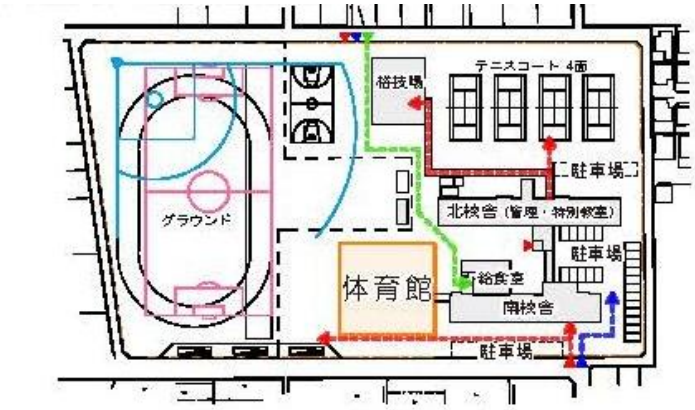
Ⅳ. 配置計画

修正後C案　工事ステップ１～2

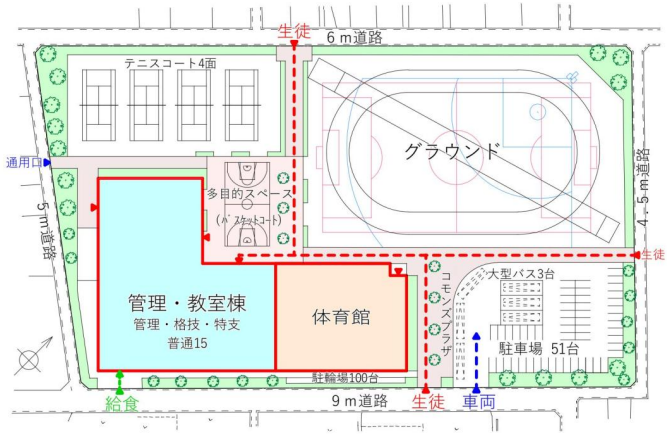
①現況



②Ⅰ期工事完了時（令和１１年頃）
体育館

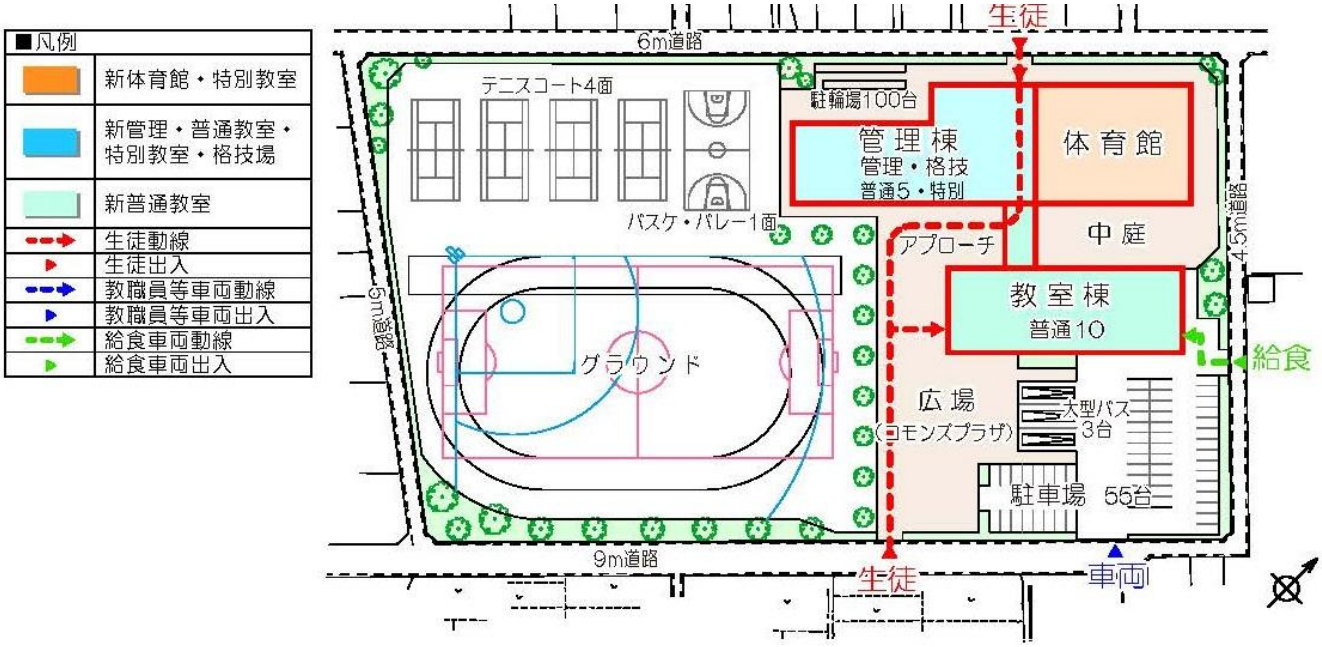


③Ⅱ期工事完了時（令和31年頃）
教室・管理棟（管理諸室、普通・特別教室、格技場）



３．配置計画検討資料

（１）A案　配置計画の完成イメージ（アンケート時点を掲載）



■計画の特徴

＜良い点＞
- 体育館から校舎は集約した棟配置であり、管理棟、普通棟とも行き来がしやすい。
- 生徒が利用する南東門および北西門と車両の出入口を分離しており、９m道路に面して駐車場も全台数をまとめて配置している。
- 学校機能を維持しながら工事をする計画は、校舎等内部についてもグラウンド等外部についても支障が少ない計画である。

＜懸念点＞
- 体育館がグラウンドと隣接していない為、内外の運動施設としての連携は難しい。
- 体育館・特別教室等が住宅に近接するため、騒音対策に配慮する。
- 工事中の生徒の動線は、最終段階まである既存南校舎が新体育館と新管理棟までの距離が遠く、仮設渡り廊下の期間もあり、安全面の配慮も必要である。

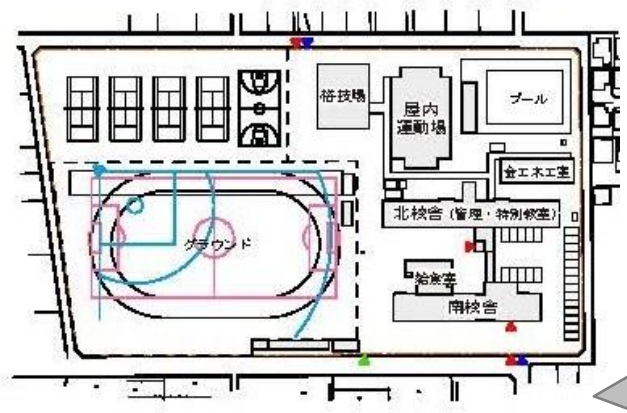
■配置計画アンケートで多かったご意見

A案良い点：現在の配置に近く、近隣住民の理解が得られやすいことや建設コストが抑えられる可能性がある 。 駐車場が一か所にまとまっている。 中庭がある。 大型バスの駐車場がある。 生徒と車両の動線が分かれている。 ９ｍ道路に車両入り口がある。 工事期間中の学校機能への支障が少ない 。
A案懸念点：一部普通教室が管理棟に入っている。 給食車両が4.5m道路を通る。 管理棟と教室棟が離れており、教職員や生徒の移動が大変（動線が長い） 。 グラウンドと体育館が隣接していないため、運動施設としての連携が難しい。 駐車場と管理棟が離れている。

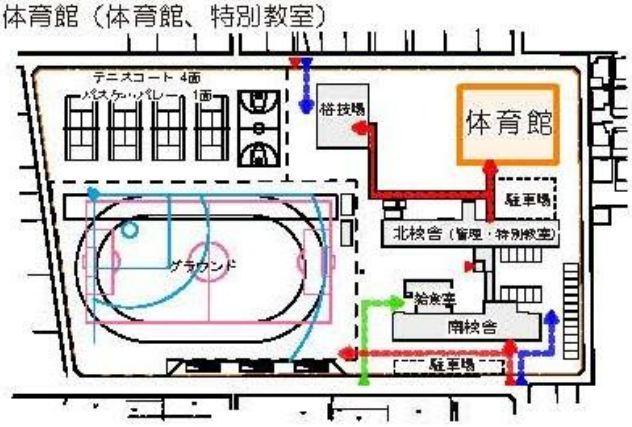
Ⅳ．配置計画

（1）A案　工事ステップの概要　1～3

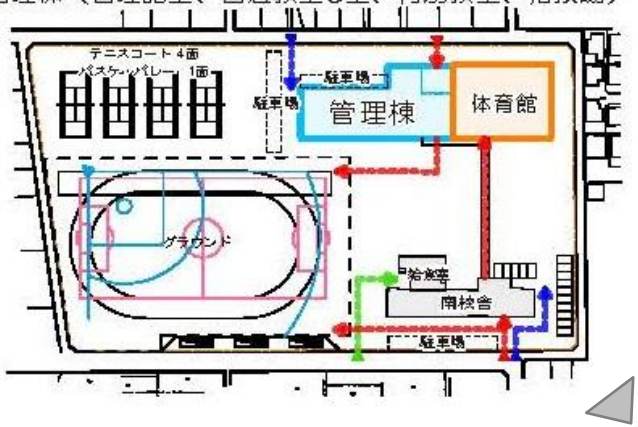
①現況



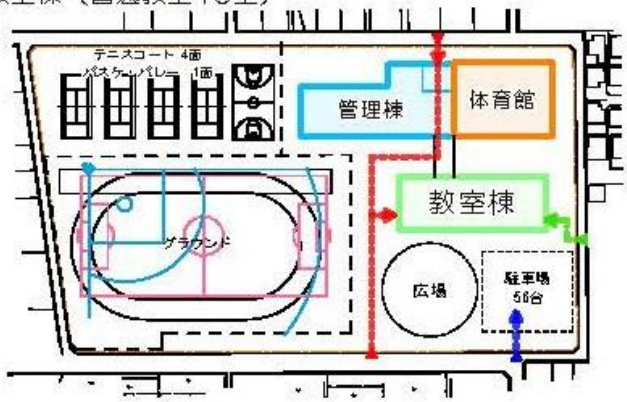
②Ⅰ期工事完了時（令和11年頃）
体育館（体育館、特別教室）



③Ⅱ期工事完了時（令和30年頃）
管理棟（管理諸室、普通教室5室、特別教室、格技場）

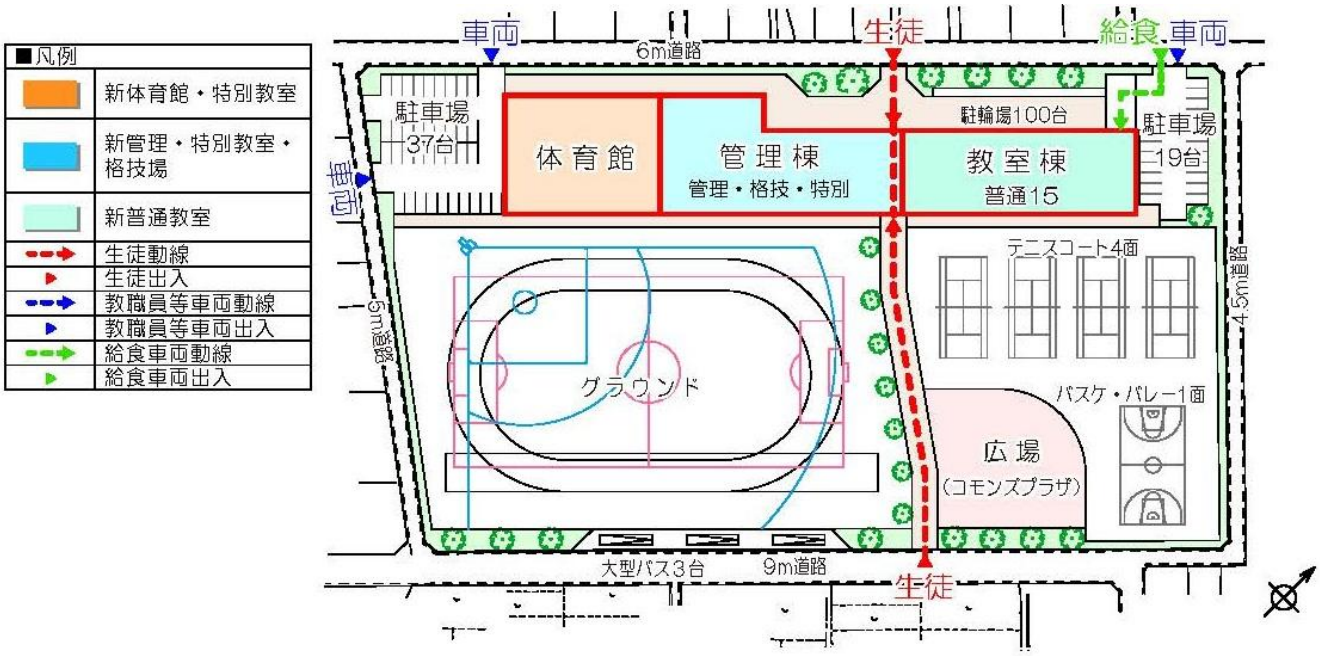


④Ⅲ期工事完了時（令和33年頃）
教室棟（普通教室10室）



Ⅳ. 配置計画

（２）B案　配置計画の完成イメージ（アンケート時点を掲載）



■計画の特徴

＜良い点＞

- 体育館がグラウンドと隣接している為、連携した利用がしやすく、駐車場にも隣接しており、地域住民も利用しやすい位置である。また、災害時の避難所としても各所の連携に有効である。
- 体育館と管理棟、普通棟は平行して一列配置に南側のグラウンドに面しているので、良好な南面採光と広い視界が確保されている。
- 生徒が利用する南東門および北西門と車両の出入口を分離しているため、生徒の動線と給食及び来校者等車両の動線が交差しない。

＜懸念点＞

- 体育館、特別教室等が住宅に近接するため、騒音対策の配慮を要する。
- Ⅰ期工事完了時の新体育館は、既存北校舎と南校舎から離れた位置の為、仮設渡り廊下の期間も含め、安全面の配慮を必要とする。
- 工事中にテニスコートが2面になる時期があるほか、バスケ・バレーコートを確保できない時期がある。

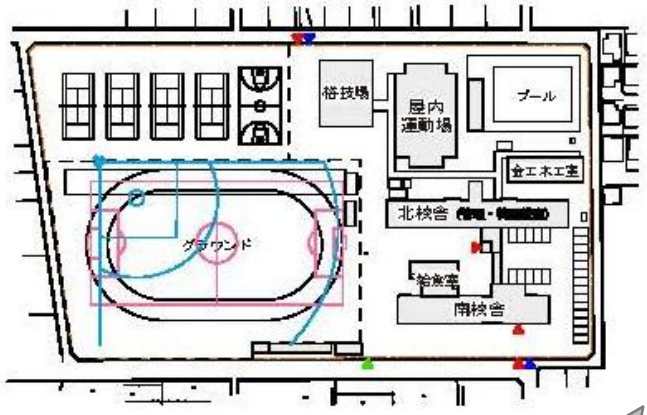
■配置計画アンケートで多かったご意見

B案良い点：グラウンドと体育館が隣接しており、連携した利用がしやすい。 建物が一体なので生徒の動線がシンプルで良い。 一体型の建物はわかりやすく、すっきりした印象。 採光が良く、校庭やテニスコートが乾きやすい。 教室棟とグラウンドが離れているため、授業に集中できる。
B案懸念点：北側住民への騒音や日陰の影響が懸念される。 駐車場が2ヶ所に分散している。 駐車場の出入口が６ｍ道路になっており、近隣への安全面が懸念される。 現行の配置と大きく変わるため、近隣住民への影響が大きい可能性がある。 教室から体育館やグラウンドまでの距離が長い。

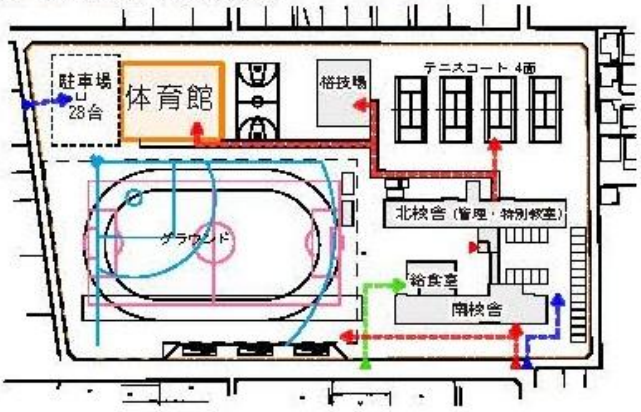
Ⅳ．配置計画

（2）B案　工事ステップ１～３

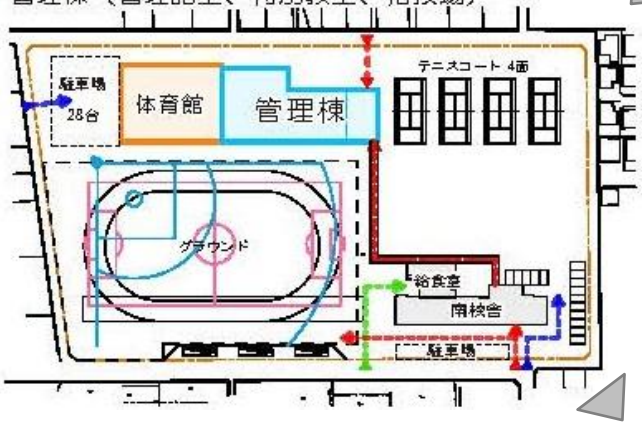
①現況



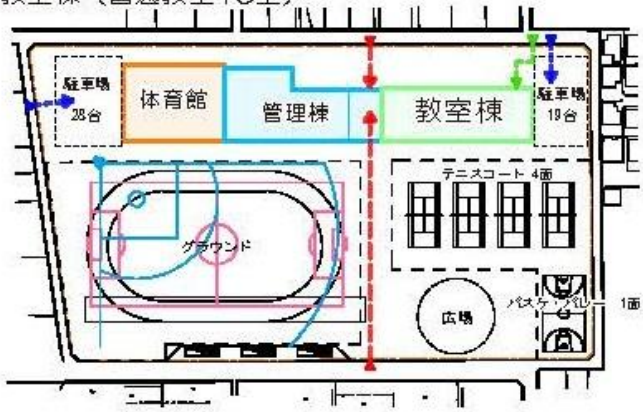
②Ⅰ期工事完了時（令和11年頃）
体育館（体育館、特別教室）



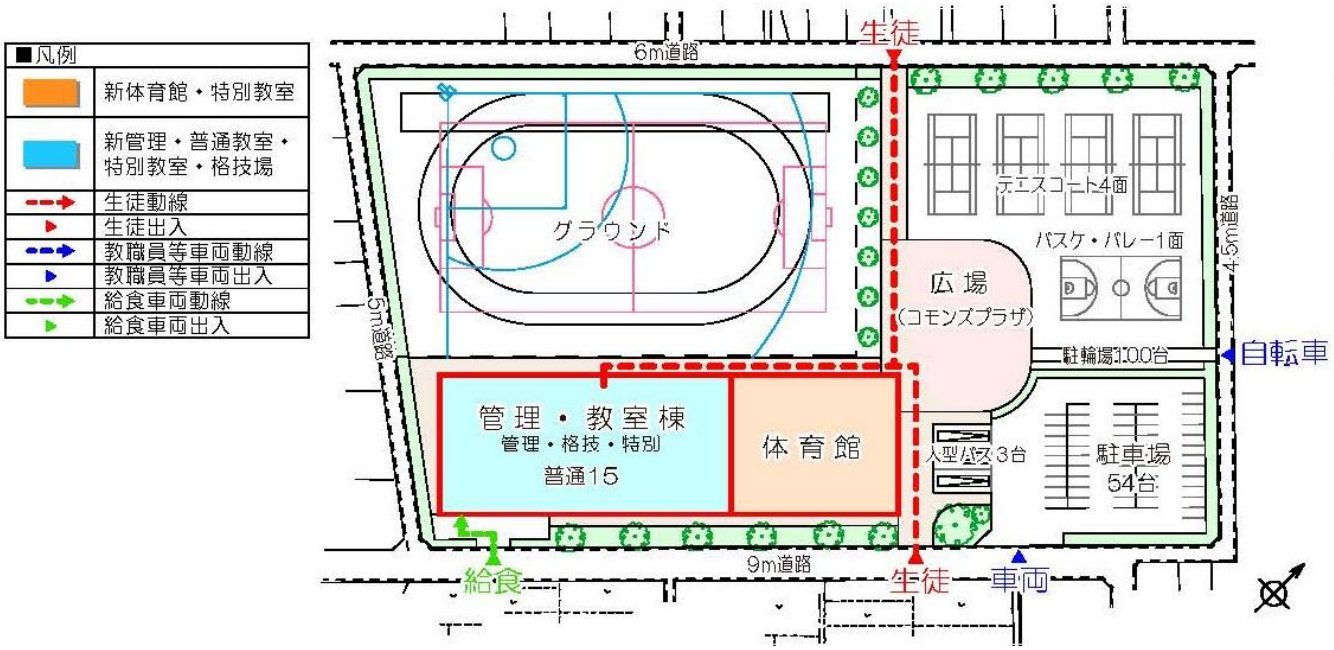
③Ⅱ期工事完了時（令和30年頃）
管理棟（管理諸室、特別教室、格技場）



④Ⅲ期工事完了時（令和33年頃）
教室棟（普通教室15室）



（3）C案　配置計画の完成イメージ（アンケート時点を掲載）



■計画の特徴

＜良い点＞

- 体育館がグラウンドと隣接している為、連携しやすく、駐車場にも隣接しており、地域利用での屋内運動や集会に使いやすい位置である。また、災害時の避難所としても各所の連携に有効である。
- 体育館と管理棟、普通棟を一体的な校舎プランとなる為、日常における各棟への往来にも使いやすい位置である。
- 北側に教室を配置した場合でも、グラウンドに面することで、広い視界と安定した採光が確保される。
- 生徒が利用する南東門および北西門と車両の出入口を分離しており、9m道路に面して駐車場も全台数をまとめて配置している。

＜懸念点＞

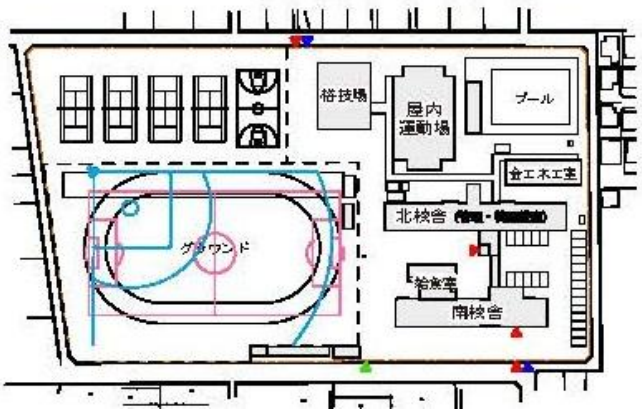
- 工事中にテニスコートが2面になる時期がある。
- 工事中にグラウンドが移動する時期が2回ある。
- 新体育館工事範囲と既存南校舎が近接している為、工事中の安全等の配慮が必要である。

■配置計画アンケートで多かったご意見

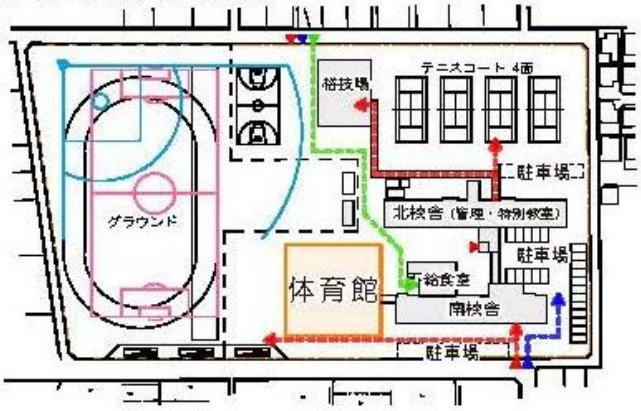
C案良い点：体育館とグラウンドが隣接しており移動がスムーズである。 建物が集約されているため活動しやすい 。 駐車場が一か所にまとまっている。 車両動線がすべて９ｍ道路を使用している。 校舎がグラウンドの日陰となり暑さ対策になる。 大型バスの駐車場がある。
C案懸念点：グラウンドが２回移動するため、工事期間中の在校生への影響が大きい。 現行の配置と大きく変わるため、近隣住民への影響が大きい可能性がある。 グラウンドが校舎の影になる。 コモンズが奥まっており地域に開かれている印象が薄い。 校舎の入口が１つなので混雑しそう。

（3）C案　工事ステップ１～2

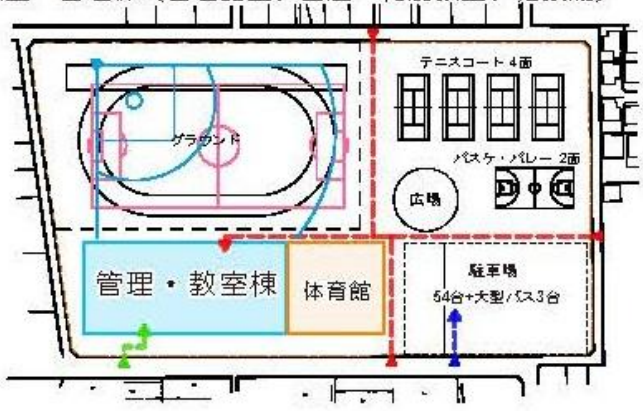
①現況



②Ⅰ期工事完了時（令和11年頃）
体育館（体育館、特別教室）



③Ⅱ期工事完了時（令和31年頃）
教室・管理棟（管理諸室、普通・特別教室、格技場）



Ⅴ．配置計画アンケートの回答概要

1.アンケートの概要

１．調査目的

西中学校校舎等更新設計における、配置計画案（３案）について各案のメリット、デメリットを把握するためにアンケート調査を実施する。

２．対象者及び回答方法

	対象者数	回答数	回答率	回答方法
西中学校に勤務する教職員（校長1・教頭1・教諭28、事務職員他2）	32	32	100.00%	Googleフォーム
西中学校に在籍する生徒の保護者	520	142	27.31%	Googleフォーム
西中学校学校運営協議会の方（教員を除く）	8	7	87.50%	紙またはGoogleフォーム
西中学校避難所運営班の方（教員を除く避難所運営会議出席者：自主防災会3、班員4）	3	1	33.33%	紙またはGoogleフォーム
西中学校学校開放委員会の方（教員を除く）	12	6	50.00%	紙またはGoogleフォーム
西中学校敷地から100m以内に居住する方	374	72	19.25%	紙またはGoogleフォーム
自治会長	14	10	71.43%	紙またはGoogleフォーム
合計	963	270	28.04%	

３．調査期間

令和７年８月２８日（木）から１０月３日（金）

４．設問

Ａ案～Ｃ案についてそれぞれ良いところと懸念点を自由記述にて記載

2.回答概要

１．各案の分析結果（良い点）

	回答数		
分類	A案	B案	C案
日当たりが良い	2	19	11
屋外施設機能が充実している	29	10	9
動線が良い	64	87	74
工事期間が短い/効率が良い	28	2	16
その他	85	78	105
合計	208	196	215

２．各案の分析結果（懸念点）

	回答数		
分類	A案	B案	C案
日当たりが悪い	2	2	16
屋外施設機能に懸念がある	5	42	30
動線に懸念がある	80	66	25
工事期間が長い/効率的ではない	24	30	52
その他	99	75	84
合計	210	215	207

３．各案ごとの回答率

	良い点		懸念点	
A案	208	50%	210	50%
B案	196	48%	215	52%
C案	215	51%	207	49%

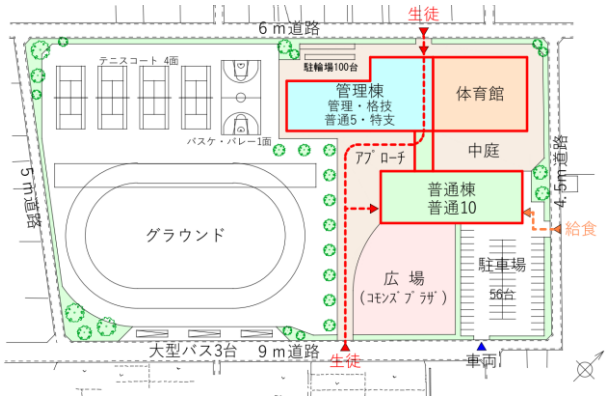
Ⅵ．比較検討表

配置比較検討

「 地域と育む、
共創コモンズ 」

※表中の評価は、
「◎=とてもよい」「○=問題ない」
「△=懸念点や課題がある」とし、
加えて重要度の係数「A=重要」「B=普通」
を考慮した。

A 案　北集約 体育館 北 2棟 （3期工事）



評価分類	評価項目		評価	重要度	評価理由
配置（完了時）	建物の配置	体育館～校舎	◎	A	集約した棟配置であり管理棟（普通教室5）、普通棟（普通教室10）とも行き来がしやすい。
		〃～ グランド	△	B	グラウンドと隣接していない為、内外の運動施設としての連携は難しい。
		〃～ 駐車場	○	B	駐車場からは離れていないので、地域利用での屋内運動や集会の使用に支障ない位置である。
		普通教室の配置	○	A	管理棟と普通棟は同時に建設できない為、管理棟に1学年分の普通教室5学級を組み込む必要がある。普通棟に2学年分の普通教室5学級を計10学級を配置し、各学年ごとにまとまりを持たせる。
		普通教室の環境	○	A	管理棟と普通棟は平行に二列配置であり、各棟ごとに南面に面した採光は確保されているが、高さに対する隣棟間距離に留意が必要である。
		地域開放の明確性	○	B	開放エリアとなる体育館と駐車場は普通棟を挟んだ位置にある為、スムーズなアクセス経路に留意する必要がある。体育館以外の棟の部屋を開放する場合は、セキュリティ区分の位置、運用を十分に検討する。
	駐車場の配置		◎	B	バス通り近くの東南側9m道路に出入口があり、アクセスしやすい。全台数をまとめて配置した整形の駐車場である。
	動線	生徒の利用動線	○	B	多くの生徒が往来する東南側9m道路および北西側6m道路から敷地にアプローチする。普通棟への行き来は渡り廊下である為にやや距離が生じる。管理棟と普通棟からグラウンドへはアクセスしやすい位置である。
		歩車分離	◎	A	敷地内で給食搬出入及び来校者等の車両と生徒動線が交差しない。敷地外についても、生徒が出入りする南東門および北西門と車両出入口を分離した計画である。
	屋外施設	グラウンド	○	A	南面に既存と同程度以上確保できる。 テニスコートなどと合わせて、現況から完了まで同じ位置にある。
		サッカー・野球	○	B	現状と同規模である。
		テニス	○	B	グラウンドとテニスコート等とも現況と同じ位置であり、一体的な配置である。面数も現況と同じ4面となる。
		バスケ・バレー	○	B	現況と同じ位置であり、グラウンドと一体的な配置である。面数も現況と同じ1面となる。
環境（完了時）	周辺環境への配慮	日影	○	A	建築基準法に基づく等時間日影の検討では、近隣に影響は生じないが、時間ごとの日影は北西と北東境界線に接する半分程度の範囲の近隣にかかる。
		騒音	△	A	体育館・特別教室等が住宅に近接するため、騒音対策に配慮する。
防災（完了時）	地域防災の向上		○	A	防災拠点となる体育館と防災倉庫、調理室を同一棟に配置するので、避難所の体育館と炊き出しに活用できる調理室の連携が図りやすい計画である。
工事中の環境・効率性	工事中の環境	校舎の同時建設	○	B	普通棟と管理棟を同時に建設は不可能。 （既存北校舎と新普通棟の位置が干渉する為）
		学校機能の維持	○	A	校舎、グラウンド等とも、各機能を継続して使いながら建替えできる。 （二期工事中、既存格技場は新管理棟と同じ位置の為、既存格技場解体から新管理棟完成まで体育館を代用）
		生徒の動線	△	B	最終段階まである既存南校舎は、新体育館と新管理棟までの距離が遠く、新普通棟建設工事の迂回をする仮設渡り廊下の期間もあり、安全面の配慮も必要である。
	各工期の懸念点・課題	1期・工事中	△	B	体育館・金工木工室解体中、新体育館へのルートが工事区画に挟まれる。
		1期・完成時～次期工事	○	B	体育館がプールの位置に移動しているが、今までの校舎と体育館および格技場の距離に概ね違いはない。
		2期・工事中	△	B	新管理棟の着工に先立ち既存格技場を解体する為、新管理棟が完成するまで、新体育館を格技場に代用する時期がある。北校舎解体工事中の既存南校舎から新体育館と新管理棟への動線は、工事範囲を迂回する安全な経路になる渡り廊下とする必要がある。既存南校舎給食室から管理棟の教室まで食缶移動も同様である。
		2期・完成時～次期工事	○	B	既存南校舎から新体育館と新管理棟への動線は、現況に近い経路となる渡り廊下とする場合は距離に概ね違いはない。
		3期・工事中	△	B	新普通棟工事中は、既存南校舎から新体育館と新管理棟への動線は、工事範囲を迂回する安全な経路となる渡り廊下とする必要がある。また、既存南校舎給食室からの食缶移動が新管理棟の教室までの距離がある。既存駐車場と新駐車場が同じ位置の為、新駐車場整備工事中は、まとまった仮設駐車場が必要である。グラウンド整備工事は半分ずつ施工する等、体育授業などの支障を最小限にする。
総　評					学校機能の維持しながら工事をする計画は、校舎等内部についてもグラウンド等外部についても支障が少ない計画である。体育館、管理棟、普通棟が集約された配置であり、各棟間の移動が効率的である。 [評価内訳：◎…3　○…15　△…6 ／ 合計24]	

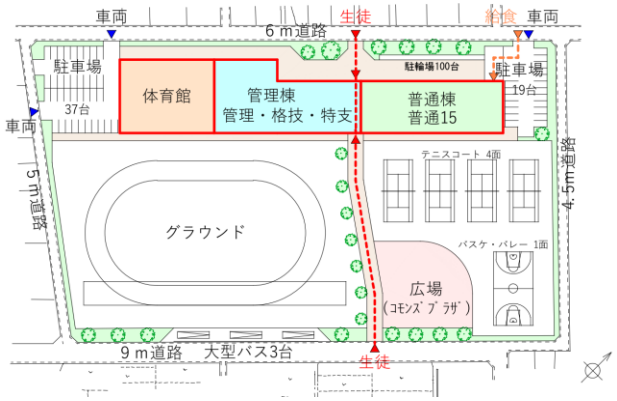
Ⅵ．比較検討表

配置比較検討

「 地域と育む、
共創コモンズ 」

※表中の評価は、
「◎=とてもよい」「○=問題ない」
「△=懸念点や課題がある」とし、
加えて重要度の係数「A=重要」「B=普通」
を考慮した。

B 案　西面 体育館 西 一型 （3期工事）



評価分類	評価項目		評価	重要度	評価理由
配置（完了時）	建物の配置	体育館～校舎	○	A	管理棟とは隣接していて、普通棟（普通教室15）からはやや距離があるが、日常における各棟への往来がしやすい位置である。
		〃 ～ グランド	◎	B	グラウンドと隣接している為、連携した利用がしやすい。
		〃 ～ 駐車場	◎	B	駐車場に隣接しており、地域利用での屋内運動や集会に使いやすい位置である。
		普通教室の配置	◎	A	管理棟と普通棟を同時に建設した場合は、普通棟に全学年分の普通教室15学級の配置が可能なので、各階ごとに学年のまとまりを持たせ、かつ上下の間取りが共通にできる。
		普通教室の環境	◎	A	体育館と管理棟、普通棟は平行に一列配置であり、南側のグラウンドに面しているので、良好な南面採光とあわせて広い視界も確保されている。
		地域開放の明確性	◎	B	開放エリアとなる体育館と駐車場、グランドが隣接するため地域開放の利用性が高い。地域利用が想定される部屋を体育館に接する管理棟に配置することにより、開放区分が可能となる。
	駐車場の配置		○	B	南西角の北西側6m道路と南西側5m道路に面した体育館に近い位置、さらに北西側6m道路の北側の普通棟に近い位置に分散して配置。
	動線	生徒の利用動線	◎	B	各棟への行き来は、隣り合う棟の距離は短いが、両端にある体育館と普通棟の距離は長くなる。各棟からグラウンドへのアクセスはしやすい位置である。
		歩車分離	◎	A	敷地内で給食及び来校者等車両と生徒動線が交差しない。敷地外についても、生徒が出入りする南東門および北西門と車両出入口を分離した計画である。
	屋外施設	グラウンド	○	A	南面に既存と同程度以上確保できる。 現況から完了まで同じ位置にある。
		サッカー・野球	○	B	現状と同規模である。
		テニス	○	B	面数も現況と同じ4面となる。
		バスケ・バレー	○	B	現況と同じ位置であり、面数も現況と同じ1面となる。
環境（完了時）	周辺環境への配慮	日影	○	A	建築基準法に基づく等時間日影の検討では、近隣に影響は生じないが、午前中の日影は北西境界線に接する近隣にかかる。
		騒音	△	A	体育館・特別教室等が住宅に近接するため、騒音対策に配慮する。
防災（完了時）	地域防災の向上		◎	A	防災拠点となる体育館と防災倉庫、調理室を同一棟に配置するので、避難所の体育館と炊き出しに活用できる調理室の連携が図りやすい計画である。加えてグラウンドや駐車場にも隣接しており、物資受け入れ、炊き出し、避難者の待機等、屋外との連携も有効な計画である。
工事中の環境・効率性	工事中の環境	校舎の同時建設	◎	B	普通棟と管理棟を同時に建設可能。 （既存北・南校舎と新管理棟や普通棟の位置が干渉しない為）
		学校機能の維持	△	A	校舎については、各機能を継続して使いながら建替えできる。 （二期工事中、既存格技場は新管理棟と同じ位置の為、格技場は、解体から新管理棟完成まで体育館を代用）
		生徒の動線	△	B	前半の新体育館が既存北校舎と南校舎から離れた位置にある為、仮設渡り廊下の期間もあり、安全面の配慮も必要である。
	各工期の懸念点・課題	1期・工事中	△	B	テニスコートが2面になる時期がある。
		1期・完成時～次期工事	△	B	新体育館が北西角に配置されてる為、既存北校舎と南校舎から離れた位置にある。
		2期・工事中	△	B	新管理棟の着工に先立ち既存格技場を解体する為、新管理棟が完成するまで、新体育館を格技場に代用する時期がある。北校舎解体工事中の既存南校舎から新体育館と新管理棟への動線は、工事範囲を迂回する安全な経路になる渡り廊下とする必要がある。バスケ・バレーコートが確保できない。
		2期・完成時～次期工事	△	B	既存南校舎の生徒が新体育館や新管理棟まで距離がある。バスケ・バレーコートが確保できない。
		3期・工事中	△	B	新普通棟の工事に先行して、もう一度テニスコートの移動がある。完了時まで、バスケ・バレーコートが確保できない。グラウンド整備工事は半分ずつ施工する等、体育授業などの支障を最小限にする。
総　評			体育館、管理棟、普通棟の長辺がすべて南面グラウンドやテニスコートに面しており各教室の採光は十分に確保でき、敷地全体も見通せる計画である。 [評価内訳：◎…9　○…7　△…8 ／ 合計24]		

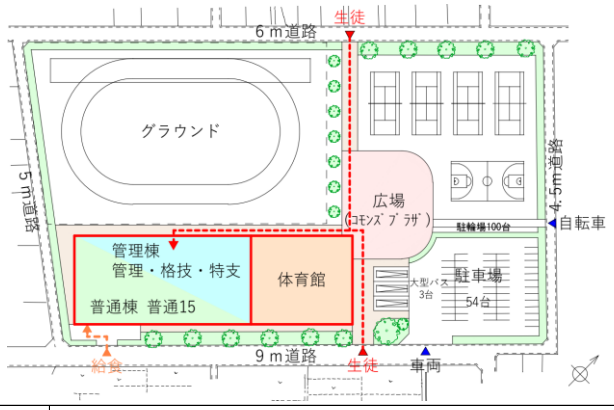
Ⅵ．比較検討表

配置比較検討

「 地域と育む、
共創コモンズ 」

※表中の評価は、
「◎=とてもよい」「○=問題ない」
「△=懸念点や課題がある」とし、
加えて重要度の係数「A=重要」「B=普通」
を考慮した。

C 案　東面 体育館 東 一型 （2期工事）



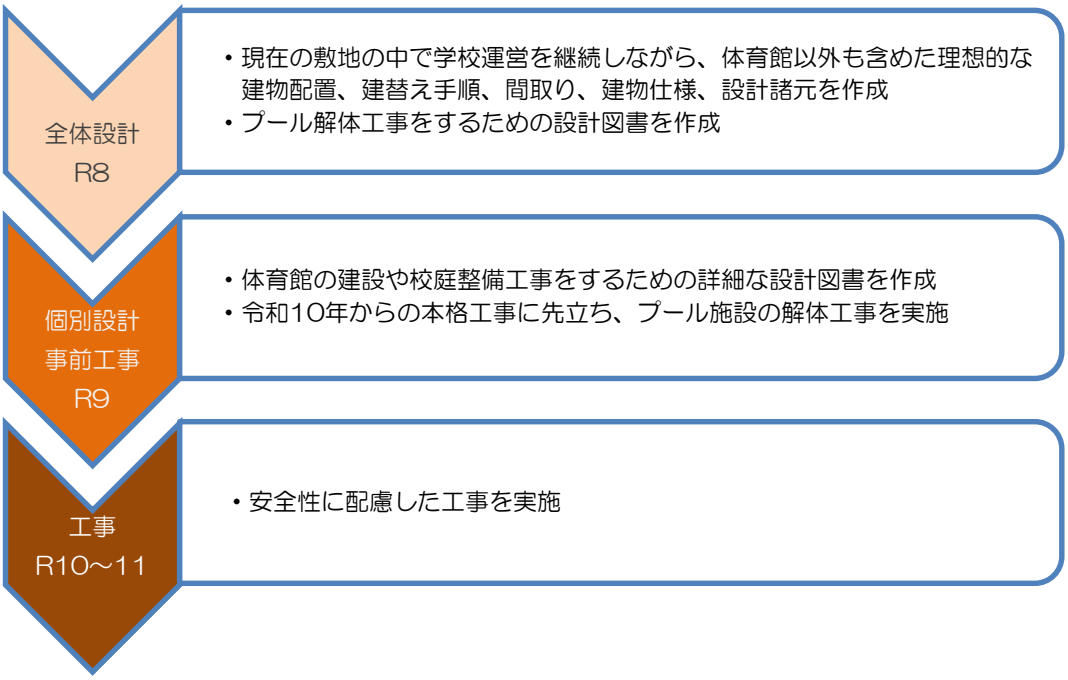
評価分類	評価項目		評価	重要度	評価理由
配置（完了時）	建物の配置	体育館～校舎	◎	A	管理棟と普通棟を一体的な校舎プラン（普通教室15）となる為、日常における各棟への往来にも使いやすい位置である。
		〃～ グランド	◎	B	グラウンドと隣接している為、連携した利用がしやすい。
		〃～ 駐車場	◎	B	駐車場に隣接しており、地域利用での屋内運動や集会に使いやすい位置である。
		普通教室の配置	◎	A	管理棟と普通棟を同時に建設する計画であり、普通棟に全学年分の普通教室15学級の配置が可能なので、各階ごとに学年のまとまりを持たせ、かつ上下の間取りが共通にできる。
		普通教室の環境	○	A	体育館と管理棟、普通棟は平行に一列配置であり、北面のグラウンド側に教室を配置した場合でも、時間ごとに変化の少ない安定した採光と広い視界が確保されている。
		地域開放の明確性	◎	B	開放エリアとなる体育館と駐車場、グランドが隣接するため地域開放の利用性が高い。地域利用が想定される部屋を体育館に接する管理棟に配置することにより、開放区分が可能となる。
	駐車場の配置		◎	B	バス通り近くの東南側9m道路に出入口があり、アクセスしやすい。全台数をまとめて配置し整形の駐車場である。また、プール授業送迎用の大型バスを敷地内に駐停車する為、生徒の安全な乗降、近隣に対する配慮に好ましい計画である。
	動線	生徒の利用動線	◎	B	各棟への行き来は、隣り合う棟の距離は短いが、両端にある体育館と普通棟の距離は長くなる。各棟からグラウンドへのアクセスはしやすい位置である。
		歩車分離	◎	A	敷地内で給食及び来校者等車両と生徒動線が交差しない。敷地外についても、生徒が出入りする南東門および北西門と車両出入口を分離した計画である。
	屋外施設	グラウンド	○	A	北面に既存と同程度以上確保できる。 現況と違う位置に移動する。
		サッカー・野球	○	B	現状と同規模である。
		テニス	○	B	面数も現況と同じ4面となる。
		バスケ・バレー	○	B	面数は現況と同じ1面となる。
環境（完了時）	周辺環境への配慮	日影	◎	A	建築基準法に基づく等時間日影の検討では、近隣に影響は生じない。時間ごとの日影も大部分が学校敷地内におさまり、近隣にはほぼ影響はない。
		騒音	△	A	体育館・特別教室等が住宅に近接するため、騒音対策に配慮する。
防災（完了時）	地域防災の向上		◎	A	防災拠点となる体育館と防災倉庫、調理室を同一棟に配置するので、避難所の体育館と炊き出しに活用できる調理室の連携が図りやすい計画である。加えてグラウンドや駐車場にも隣接しており、物資受け入れ、炊き出し、避難者の待機等、屋外との連携も有効な計画である。
工事中の環境・効率性	工事中の環境	校舎の同時建設	◎	B	普通棟と管理棟を同時に建設可能。 （既存北・南校舎と新管理棟や普通棟の位置が干渉しない為）
		学校機能の維持	△	A	校舎については、各機能を継続して使いながら建替えできる。 （二期工事中、既存格技場の場所は、仮グラウンドとなる為、格技場は、解体から新管理棟完成まで体育館を代用）
		生徒の動線	○	B	新体育館から既存北・南校舎までの距離は近く、仮設渡り廊下の期間も比較的安全な配置である。
	各工期の懸念点・課題	1期・工事中	△	B	グラウンドが90度回転移動する為、整備工事は半分ずつ施工する等、体育授業などの支障を最小限にする。テニスコートが2面になる時期がある。新体育館工事範囲と既存南校舎が近接している。
		1期・完成時～次期工事	○	B	新体育館が南側に移動しているが、既存北校舎と南校舎に近接した位置である。
		2期・工事中	△	B	再びグラウンドを90度回転移動する為、整備工事は半分ずつ施工する等、体育授業などの支障を最小限にする。新体育館と既存北校舎および南校舎解体工事範囲が近接している。既存北校舎および南校舎解体工事を同時に行う場合は、駐車場の確保が難しい。
		2期・完成時～次期工事	○	B	2期工事で完了する為、全体工期の短縮が見込まれる。
		3期・工事中	○	B	2期工事で完了する為、全体工期の短縮が見込まれる。
総　評			体育館、管理棟、普通棟の長辺がすべて北面グラウンドやテニスコート等に面しており、安定した北側採光と昨今の温熱環境を勘案した教室配置が可能である。敷地全体も見通せる計画である。建替え工事が、2期で完了する。 [評価内訳: ◎…11　○…9　△…4 ／ 合計24]		

Ⅶ. 事業スケジュール

1.整備スケジュール

「Ⅳ配置計画　修正後Ｃ案工事ステップ」１～２の通り、体育館（屋内運動場）の建替えから着手します。

■新体育館の完成までの流れは次のとおりとなります。



※新築工事の期間は現時点での概算であり、今後の詳細検討により前後する場合があります。

上尾市教育委員会

令和 8 年 10 月